

# 「要塞の島」ごみ拾い

和歌山 大阪のNPOなど主催

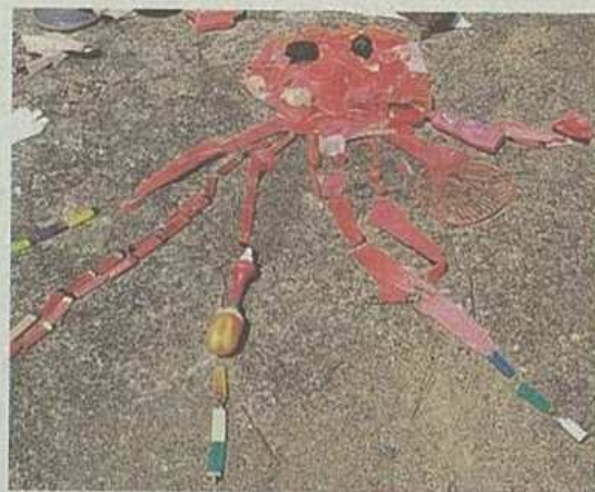


参加者たちが次々と海岸にうち寄せられたごみを拾った

「要塞の島」として知られる和歌山市の無人島「友ヶ島」で27日、海岸に漂着したごみを拾うイベントがあった。繁華街で掃除を続

けるNPO法人「スマイルスタイル」（大阪市西区）などが主催し、大阪や和歌山の市民ら117人が参加した。

拾い集めたごみを塗り絵のように並べてタコをつくった。いずれも和歌山市加太の「友ヶ島」



こけむした旧日本陸軍の砲台跡が並ぶ島は、宮崎駿監督のアニメ「天空の城ラピュタ」に似ていると話題になり、昨年度は3万人を超える観光客が訪れた。一方で、和歌山市と淡路島の間に位置する島は、大阪湾などから流れ着くごみに悩まされている。

今年で8回目を迎えるイベントで、この日は親子連

れなどが、ペットボトルや発泡スチロールの破片などを拾った。2時間ほどで拾ったごみはごみ袋（45袋）327袋分に。参加者たちは最後に色とりどりのごみを仕分けして並べ、赤いタコや青い魚の絵もつくった。

大阪商業大学の原田禎夫准教授（39）は、環境経済学を学ぶゼミ生と家族を連れて参加。瀬戸内海沿いから流れ着いたとみられるカキの養殖用パイプや人工芝の破片を見つけ、「掃除を通してみんなが自分たちの暮らしからごみが出ていると実感しているはず」。和歌山市の中学1年上田一嘉君（12）は「普段からみんなが捨てないように気をつけたら、こんなに積もらないのに」と話していた。

（上田真由美）